

埼玉県では平成18年に「身近なみどりの保全と創出」を目指し「埼玉県広域緑地計画」を策定した。また、平成20年からは県の重点施策の一つとして「みどりと川の再生」を掲げ、森林の保全や再生、河川の水質浄化、水辺環境の改善などに取り組んでいる。「埼玉県広域緑地計画」の中では、埼玉県内の森林面積は1975年から2000年の25年間に約7800ha（約6%）減少し、特に平地林の面積は約25%減少したとしている。しかし、必ずしも県内の空間的な森林面積の増減の特徴や土地利用の経年変化などが十分把握されたわけではない。そこで、同一箇所を対象とした多時期のGISデータを用い埼玉県における森林の変遷を整理した。

## 埼玉県における耕作放棄地の推移

- 農林業センサス農業集落カードデータを用い、農業集落別耕作放棄地率を地図化、集計した。
- 耕作放棄地とは過去1年以上作物を栽培せず、しかもここ数年の間に再び耕作する意思のない土地を言うが、1975年から2000年の埼玉県における平均集落別耕作放棄地率の推移を見ると、1985年までは平均5%以下に止まっていたが、1990年以降耕作放棄地は急激に増加し、2000年には平均で10%を超え、最も耕作放棄地率が高い農業集落は79.5%であった。
- 2000年における耕作放棄地率の地理的な分布を見ると、県西部の中山間地域で高かった。農業集落の平均標高と耕作放棄地率との関係を見ると、平均標高が100m以下の集落では耕作放棄地率が8.7%であったのに対し、400~600mの平均耕作放棄地率は40%を超え、概ね標高が高くなるに従い耕作放棄地率は増加する傾向が認められた。



## 埼玉県における森林の推移

- 比較的長期間データが整備されているGISデータ(国土交通省土地利用細分メッシュデータ)を用い、埼玉県における森林の面的な変遷を把握した。土地利用細分メッシュデータは1976年から2006年の間に5時期データ作成が行われており、空間解像度は一辺約100mである。
- 土地利用細分メッシュデータを3次メッシュ単位で集計し、1976年から2006年の間に森林率の変化を抽出したところ、森林率が減少したメッシュは39.9%、増加したメッシュは9.5%、他の50.6%のメッシュには変化がなかった。
- メッシュごとの増減率の空間的な分布を見ると、入間台地や比企丘陵など県中央部に減少が大きく、秩父盆地周辺でも減少率の大きいメッシュが認められた。同じ時期の人口増減は、県中央部の台地や丘陵地帯で大幅に増加しており、宅地造成などにより森林率が減少したのではないかと考えられた。
- 一方、秩父地域北部の吉田丘陵や上武山地、また、県南部の和光市周辺で森林率が増加したメッシュが認められた。森林率が増加した秩父地域北部は、この間人口減少が続いており、耕作放棄地なども多く、耕作放棄地が遷移などにより森林に移行することで森林率が増加したのではないかと考えられた。一方、県南部での森林率増加は、この間人口も増加していることから秩父地域における増加とは要因が異なると考えられ、緑地の保全や、荒地などからの遷移により森林率が増加した可能性もあると思われる。

